

震災時に必要となる薬剤

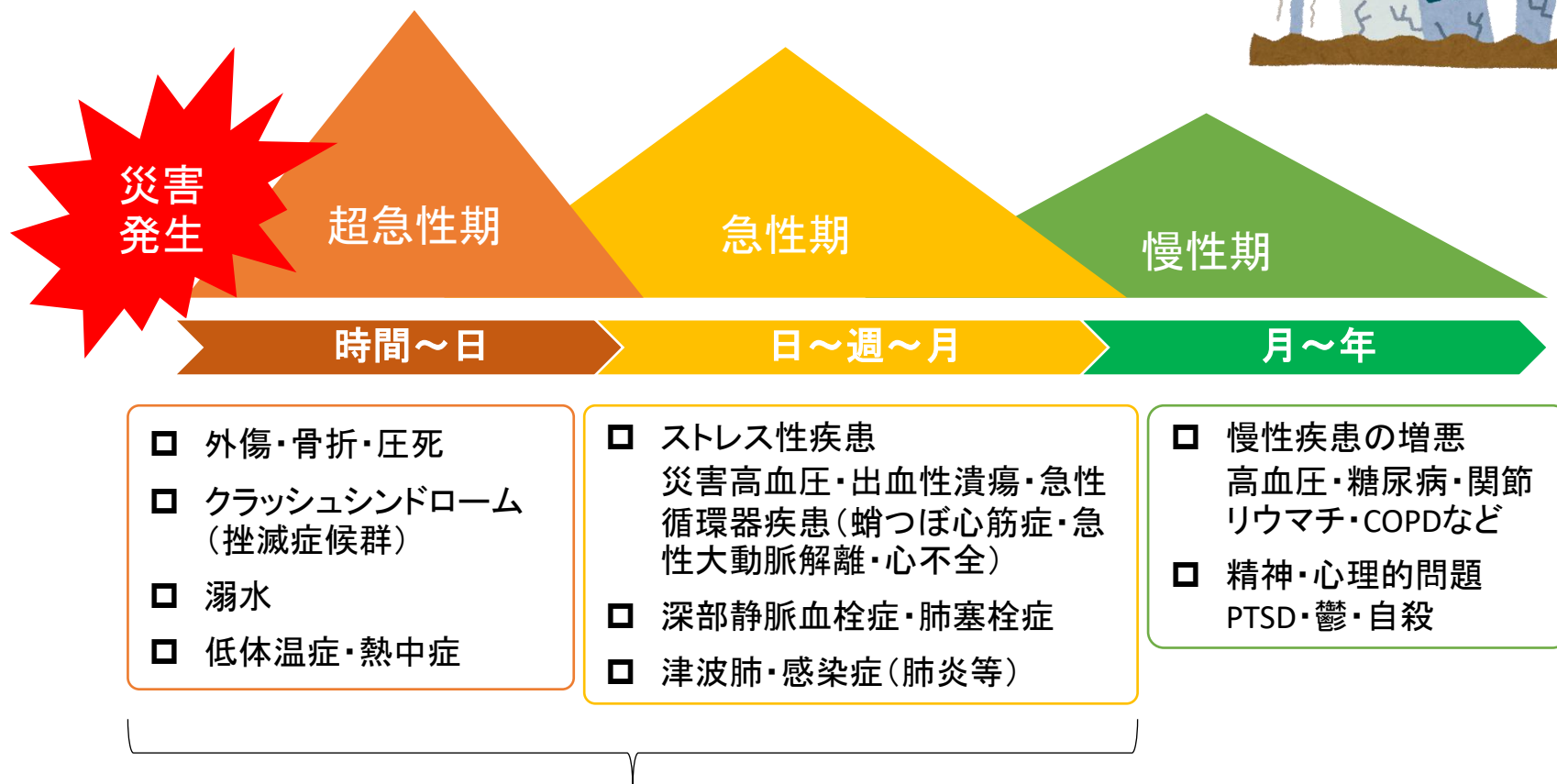


- 災害時の薬品を専用に備蓄している施設は少なく、**ERに配置している薬剤で対応する施設が多い傾向**がある
- 平時の薬品管理の観点からも、災害用の薬品を別に管理するより、ER用の薬剤として管理した方が利点が多いため、愛知県薬剤師会では**ERに配置を推奨する薬品**としてリストを作成した

参考資料：

DMAT標準薬剤リストVer.2.0、日本災害医学会超急性期における必須医薬品リスト、JMAT携行医薬品リスト Ver.3.0、IEHK2024、JMAT携行医薬品リスト Ver.3.0（産科緊急搬送）

震災時に発生する疾患について



災害初期は外傷などの他、循環器系や感染症への対応が必要となる
超急性期～急性期に発生する疾患に対応するための薬の準備が必要

配置を強く推奨する薬剤①

薬効	薬品名	備考
輸液	生理食塩液500mL	細胞外液として使用 ※大量投与時は代謝性アシドーシスに注意
	リンゲル液500mL	種類は問わない (可能なら酢酸リンゲル液)
	生理食塩液100mL	各種薬剤の点滴投与用の希釈液 (キット製剤でも可)
	生理食塩液20mL 5%ブドウ糖20mL	薬剤溶解用、ルートフラッシュ用など ※アミオダロン配置時は5%ブドウ糖液は必須
抗コリン薬	アトロピン硫酸塩注0.05%シリンジ	徐脈性不整脈、心静止時に使用 ※使用法はACLSガイドラインに従う
昇圧剤・強心薬	アドレナリン注0.1%シリンジ	心肺蘇生時に使用 ※使用法はACLSガイドラインに従う
	ノルアドレナリン注1mg	ショック時の第一選択薬
降圧薬	ニカルジピン塩酸塩注10mg10mL	長期投与による静脈炎に注意
利尿薬	フロセミド注20mg	持続投与の方が利尿効果は高い
抗不整脈薬	アミオダロン塩酸塩注150mg3mL	致死的不整脈の第一選択薬 (リドカインでも可)
ステロイド	ベタメタゾンリン酸エステル ナトリウム注2mg	リン酸エステル型を推奨 (アスピリン喘息対策) 無い場合はコハク酸エステル型でも可

配置を強く推奨する薬剤②

薬効	薬品名	備考
鎮静薬	ジアゼパム注10mg	けいれん発作時に使用
	ミダゾラム注10mg	挿管時の鎮静維持に使用 (プロポフォールでも可)
筋弛緩薬	ロクロニウム臭化物注50mg	挿管時に使用
局所麻酔薬	リドカイン注1%10mL	エピレナミン含有製剤でも可
解熱鎮痛薬	アセトアミノフェン注1000mg100mL	
抗凝固薬	ヘパリンNa注5000単位5mL	深部静脈血栓症などの治療で必要
電解質補正薬	グルコン酸カルシウム注8.5%10mL	高K血症時の心筋収縮力増強（心保護）にも使用
	硫酸マグネシウム注20mEq20mL	QR延長に伴うTdP（多形性心室頻拍）に有効
	炭酸水素ナトリウム注8.4%20mL	アシデミアの是正
糖液	ブドウ糖注50%20mLシリンジ	低血糖発作で使用する場合、シリンジ製剤が望ましい
感染予防	沈降破傷風トキソイド0.5mL	屋外で生じた外傷に使用
抗生剤	セファゾリンナトリウム注1g	主に外傷の感染治療を想定 肺炎治療まで考慮するならSBT/ABPCでも可
	クリンダマイシンリン酸エステル注600mg4mL	β ラクタムアレルギー患者用

配置を推奨する薬剤

薬効	薬品名	備考
抗不整脈薬	ランジオロール塩酸塩注150mg	蘇生後の頻脈性不整脈に使用
抗ヒスタミン薬	クロルフェニラミンマレイン酸塩注5mg1mL	
制吐剤	メトクロプラミド塩酸塩注10mg	
洗浄液	生理食塩液500mL（外用）	外傷の洗浄用 （輸液製剤で代用するのも可）
止血薬	トラネキサム酸注10%	止血剤として単独で効果あるので、 カルバゾクロムスルホン酸ナトリウムより優先して配置する
粘滑剤	リドカイン塩酸塩ゼリー2%30mL	カテゼリーなど、キシロカインを含有しない粘滑剤でも可
気管支拡張薬	プロカテロール塩酸塩水和物10 μ g吸入100回	喘息発作時に使用
血管拡張剤	ニトログリセリンスプレー0.3mg	狭心症発作時に使用